



目標5: ジェンダー平等を実現しよう

5 ジェンダー平等を実現しよう



世界では男性や女性が平等に活躍する場が多く設けられ、より良い社会生活へとジェンダー平等が構築されつつあります。

ですが、日本は依然としてジェンダー平等への課題が数多く残っており、男女間の平等についての調査では 146 力國中 125 位とジェンダー平等への遅れをとっています。

1位	アイスランド	15位	イギリス (G7)
2位	ノルウェー	30位	カナダ (G7)
3位	フィンランド	40位	フランス (G7)
4位	ニュージーランド	43位	アメリカ (G7)
5位	スウェーデン	79位	イタリア (G7)
6位	ドイツ (G7)	105位	韓国
7位	ニカラグア	107位	中国
8位	ナミビア	125位	日本 (過去最低)
9位	リトアニア	146位	アフガニスタン
10位	ベルギー		

2023年 世界経済フォーラム

す。そもそもジェンダーとは何か？ジェンダーとは文化的・社会的に構築された性のことを表し、例えば「家事・育児は女性がするもの」とか「仕事は男性がするもの」など「男らしさ」「女らしさ」という文化的につくられた意識のことを表します。日本はなぜこんなにもランキングが下なのかと考えた時、まず浮かんでくるのが日常生活で「無意識のうちにしている偏見・差別」が問題ではないかなと私は思えてなりません。

前述したように「〇〇は女性・男性がするのだ」という

ものの見方や考え方、「男子は青色、女子はピンク色」などと子育て上での男・女らしさの押し付けなど、身近に様々なジェンダー問題があります。また政治面では女性議員の割合が、衆参両院 711 名中 114 名 16% (2023/7/19 日現在) と諸外国に比べて低く、内閣府の地方議員を対象にした調査によると、6 割近くの女性議員がハラスメントを受けた経験ありと回答しています。経済面でも女性と男性で歴然とした賃金格差があります。上記に書いたのはほんの一例にすぎません。日本のジェンダーの問題はまだまだ沢山あります。ジェンダー格差を解決するには、まず私たちがこの問題に常に高い関心を持ち、日常生活をおくる中で意識改革をすることが、家庭生活や政治、経済活動面で女性の社会的地位の向上と改善に繋がります。【男性にとっても居心地が良い平等な社会】を築いていくうえで欠かせないことだと思いました。

☆10代のうちに考えておきたいジェンダーの話☆

普段の生活であまり考えることのない「ジェンダー」をキーワードに、私たちがこれから歩む人生にかかわる様々な出来事について、身近な事柄を難解な文章ではなく、易しい言葉つかいで書かれている本です。ジェンダーの固定観念にとらわれない生き方をするには、どうすべきか、「自分を」知ることとはどういうことなのか……

是非とも読んでください。気づかない知らないことばかり、目から鱗とはこのことだと思えた素晴らしい本です。

(ちなみに、こちらは、岩波書店様から頂いた本です。)



「無意識の偏見」にアンテナを

ジェンダー問題について意識する機会もなく、単語として耳にする程度でした。本書を手にしたことで、沢山のことを考えさせられました。16年間生きてきた中で、一切疑問もなかった物の見方に考え方に疑問が湧きあがりました。日本国内に蔓延る固定概念ともいえる女性・男性の見方、その価値観を直ちに改めるのは、とても難しいとも感じました。我が国がよりジェンダー平等に近づくには、私たち一人一人が常日頃から意識をしてこの問題に関心、興味をもつことが一番の近道ではないかと私なりに考えました。

また、2月11日は2015年の国連総会が制定した「科学における女性と女児の国際デー」です。次号でも引き続き、上記の国際デーに関連した内容を取り上げますので、どうぞ期待ください。お楽しみに(*^v^*)

文責: 副部長 1-3 N.Y